

当院は「腹腔鏡下手術」を本格的に導入しました

当院では
様々な消化器疾患に対し
腹腔鏡下手術を行っています

消化器外科領域におけるさまざまな手術は、従来の開腹手術から腹腔鏡下での低侵襲手術へと移行してきております。腹腔鏡下手術では創もきわめて小さく体への負担も少ないので、術後の回復が早く、入院期間も短縮でき、患者様の満足度や医療経済の点からも優れており、患者様からの希望も増えてきています。さらに腹腔鏡下手術は低侵襲であることはもちろん、癌に対する根治性を維持した上での精緻な手術が可能となり、術後の機能温存も図れます。

日本内視鏡外科学会2017年の内視鏡外科手術に関する

アンケート調査による第14回集計結果報告によれば胃癌・大腸癌に対する腹腔鏡下手術は年々増加傾向にあります。

当院外科では従来、胆石症・急性胆嚢炎や急性虫垂炎に対して腹腔鏡下手術を導入しておりましたが、2019年4月より赴任しました消化器外科芝原（日本外科学会指導医・日本消化器外科学会指導医）を中心に、御鍵・土井・長谷場・城戸のメンバーで胃癌・大腸癌や胃・十二指腸潰瘍穿孔、腸閉塞、食道裂孔ヘルニアや鼠径・腹壁癒痕ヘルニアなどに腹腔鏡下手術を本格的導入しました。悪性疾患や良性疾患を問わず消化器疾患全般に対して、広く実施しています。

また、80歳を超える高齢者の方にも腹腔鏡下手術は安全に施行でき、術後2週間前後

日本内視鏡外科学会 内視鏡外科手術に関するアンケート調査



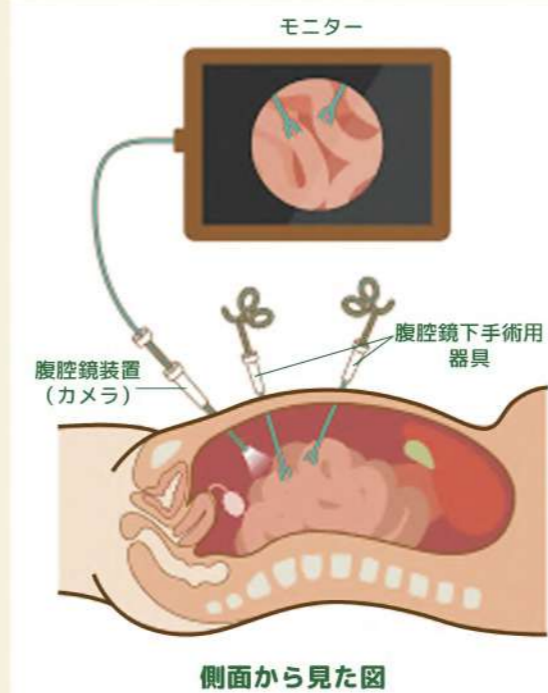
で、お元気に自宅退院も可能です。

チームで化学療法に取り組みます

当院では2019年より化学療法（抗がん剤治療）チーム（チーフ消化器外科芝原）を新設し、消化器の癌に対し

て、術後再発予防のための術後補助化学療法、発見された時点で他の臓器に転移を伴っている胃癌・大腸癌・肝胆膵癌や、術後に再発してしまつた胃癌・大腸癌・肝胆膵癌に対しても、化学療法チームを中心に、患者様のご年齢、体の状態、病状に適した抗がん剤治療を行っています。消化器癌に対する標準治療とされる様々な抗がん剤、分子標的治療薬や、ノーベル賞で有名なト阻害剤などの新規治療薬を外来化学療法室との連携のもと、医師、看護師、薬剤師、栄養士、社会福祉士（医療ソーシャルワーカー）などの多職種チームがご家族とともに患者様を支えて治療を行っています。また、進行直腸癌に対する術前放射線化学療法を積極的に取り入れており、治療成績の改善に取り組んでいます。今後、腹腔鏡下手術を含む手術のみではなく、放射線治療や抗がん剤治療（化学

腹腔鏡下手術について



腹腔鏡下手術の 優れている点

- 傷が小さく、術後の痛みが少ない
- 術後早く動くことができ、合併症を軽減
- カメラで拡大して見えるので緻密な手術が可能
- 出血量が少ない
- 美容上、傷が目立たない
- 早期退院ができ、社会復帰が早い
- 従来手術と治療成績が変わらない
- 高齢者にも安全に施行できる

腹腔鏡下手術の 問題点

- 時間が長くなる
- 手術の難易度が高くなる



療法)を組み合わせた集学的な治療を行うことにより治療成績の向上に取り組んでまいります。

これからの目標

当院において、腹腔鏡下手術は、手術時間は従来の開腹手術に比較して、時間はややかかりますが、術後の回復は確実に早くなっています。また、技量の習熟により安定した治療成績が得られるようになってきました。今後も最新の技術、機器を取り入れながら内視鏡外科手術を拡充させ、さらに技術修練、指導を通して内視鏡外科専門医の育成も行ってゆきたいと考えております。

今回のご担当は

外科部長 芝原 幸太郎 先生

日本外科学会専門医・指導医、
日本消化器外科学会専門医・指導医、がん治療認定医、
日本臨床腫瘍学会暫定指導医、消化器がん外科治療認定医、
医師会総合医、緩和ケア研修修了



病気や治療の相談や
問い合わせなどは
消化器外科 芝原 まで
ご相談ください。